令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【中島小学校】

6	次年度への課題と学力向上策	
知識·技能	次年度に向けて	
思考·判断·表現	未評価 2月)	

<u>(1)</u>	今年度の課題と学力向上策			
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期·頻度】	
知識·技能	〈学習上の課題〉 国語の「言語」に関する事項、算数の「図形」に関する事項 に、前年度に引き続き課題が見られる。 〈指導上の課題〉 生活の中でさまざまな言葉に触れ、使う機会が少ない。また、図形を視覚的に捉える活動が十分ではない。	⇒	■国語の「言語」に関わる基礎的な学習(音読・漢字練習・作文)について、学校「授業)と家庭が連携しながら推進する。「通年】 ■視覚的な効果を発揮させた、全ての児童に分かりやすい授業を展開できるように、指導の充実を図る。【国・算を中心にすべての授業で実施する】	
思考·判断·表現	<学習上の課題> 言葉の特徴を正しく捉え、使い方を選択する事項、平面で 表現された風形を立体的に捉える事項に課題が見られる。 <指導上の課題> 学習後の自己評価に客観性を欠くことがあり、自身の身に 付いた力を正しく振り返る経験が少ない。	⇒	■教科や学習内容の特性に基づき、具体物操作やICTの活用により、課題を多角的に捉える経験や機会を多く設定する。【学校課題研修と連携して進める】 ■学習の振り返りなどを通じ、児童自身が自らの学習進度を把握し、学習を自己調整する経験を充実させる。【通年】	

<小6·中3>(4月~5月)

5	評価(※)	調査結果学力向上策の実施状況	
知識·技能	2 3	結果分析(管理職・学年主任等) 詳細分析(学年・教科担当) 分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	童生徒の学力の
思考·判断·表現		結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

4	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識·技能	
思考·判断·表現	

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

学習にICTを積極的に活用した授業が展開されており、ICTに関する児童の関心が高く、それに伴って「ICT機器を活用した
学習」に関する事項の経験が高くなっている。国語の正答率は総じて高く、特に情報の扱い方に関する事項が高くなってい
る。要因として「読書が好きな児童」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと考えている児童」の割合が高いことが関わっていると考えられる。算数ではデータの活用や計算の処理が高い正答率の一方で、数直線の利用や神の測定といった、数量を具体物や図と結び付けることに課題が見られる。

国語では、「話すこと・例、こと」、「読むこと」の領域のご答案が高くなっている。算数では「データの活用(表やグラフの読み取りや数量関係をとらえる)」の領域で高い正答率となった。要因として前述した「読書が好き」と回答した児童の割合が高いことに加え、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと考えている児童」、「分からないことやくわしく知りたいことがあったとに、自分で学び方を考え、工夫することはできていると考えている児童」の割合が高いことから、授業を通じて自分のめあてに対し、自己・他者の意見や考えを比較検討したり、表やグラフなどの資料を活用したりしながら学習を進めたことが、各数科の思考か・判断か、表現力の向上につながったと考えられる。

①結果分析(管理職·学年主任等 ②詳細分析(学年·教科担当)

200			
(3)	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期·頻度】
知識·技能	B 中間語	■国語の「言語」に関わる基礎的な学習(音読・漢字練習・作文)について、学校(授業)と家庭が連携しながら推進している。特に「読書」の習慣が学力向上に関わることをリーフレットなとも活用しながら啓発する。 ■視覚的な効果と、実際を伴った理解のバランスに留意し、全ての理量に分かりやすい授業を展開できるように、引き続き指導の充実を図る。	「変更なし」
思考·判断·表現	目標・f	■教科や学習内容の特性に基づき、具体物操作やICT機 器の活用、他者の意見や考えを参照するなど、引き続き 課題を多角的に捉える経験や機会を多く設定する。 ■学習の保い返りなどを通じ、児童自身が自らの学習進 度を把握し、学習を自己調整するとともに、学びや成長 を実感し、学習意欲向上へつなげるようにする。	「変更なし」

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)